

3月に始まった長いトンネルから、「通常」という名の毎日にやっと抜け出すことが出来ています。各学校の皆さんは、この長い不安な時間に、子どもたちとの日々を迎えるための自己統制と自己研鑽の日々を送られたことと思います。お疲れ様でした。

その混乱の最中、5月の課題送付に「2つのお願い」を同封させていただきました。その願いの一つである「予習型学習」について、今回新しい「通常」の中で、皆さんに考えていただくための資料を配らせていただくことにしました。4回のシリーズを予定しています。指導課だよりと併せて教育課程や授業づくりの一助になればと考えます。宜しくお願いします。

さて、本年度の私たちは、教育課程の根本となる新学習指導要領の完全実施及び移行準備の年に小学校、中学校、それぞれが位置しているということを深く認識していなければなりません。その重要な年度の準備と開始の時に、新型コロナは私たちに多くの変化を要求しました。その変化から医療やICT関連技術の急激な進歩が生まれました。いずれは、と思っていた Society5.0 も急に近くなり、必然的に新しい学びへの動きが強くなりました。学校教育では新学習指導要領の主張する「主体的・対話的で深い学び」の必要度がより高くなり、しかもその実践にスピードも求められることになりました。

これまでも指導訪問の折など、総合的な学習の時間や生活科を引き合いに学習の転換の必要性をお話ししてきましたが、未だに正解の見えない新型コロナへの対策は、まさに、新学習指導要領の目指す学びを具体的に示しているものの一つとも言えます。

これまでの学習は、必ず答えがある学習でした。課題解決型学習と言いながらも、あたかも主体的に考えさせるようにし、意見を述べさせ、正解まで導くことが授業であり、復習をしつかりとさせて、知識を定着させることが一つの流れだったと思います。

しかし、今ICTを活用すれば、正解は指一本で導けます。これからの社会を担う児童生徒には、より多くの思考と出会うことが必要です。学校では、新しい課題や教材に「主体的に」向き合わせ、そこで生まれる子どもたちの反応から教員自身も学び、何を学ばせれば良いかと考えて、自分も新しくなって授業を創り出すという新しい学びが必要なのです。

例えば社会科の基本的な人権の授業に「現在のアメリカの人権問題について疑問点を整理してきなさい」という家庭学習を出したとします。「課題解決型の課題を予習させるだけか」と考える方もいらっしゃると思います。その通りです。しかし、家庭でじっくりと課題に向き合うことにより、課題に対する児童生徒の反応は拓がったものになるはずですし、その主体性は確実に増すと思います。難しいことはそれらを受けて、どのような授業展開をするかです。

新しい学びには、家庭学習等を含めて、より多くの準備や時間を必要とします。それらによって多様な工夫が出来、多様な学び方が可能になります。予習型学習はその一つと考えます。反転学習や探究学習も同様で、予習型と同じ要素を含んでいると考えます。また、ICTはそれを支える重要なツールとして存在します。もちろん従来の復習型の方が適している教科や教材も多くあります。それらを組み合わせて教育課程をマネジメントしていただきたいと考えています。

(次は ICTと予習型学習を予定)